



第180号

発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 京大関係病院長協議会定例総会
第68回原爆災害総合研究調査班
遭難者慰霊の集い
- ③ 第65回西日本医科学生総合体育大会
校友会・KMS・FUNDだより
- ④ 支部だより 三重・香川
- ⑤ 支部だより 福井・奈良・愛媛
- ⑥ 支部だより 滋賀
- 人事異動・会員計報

学部教育の充実化必要

新年あいさつ

芝蘭会会長 湊 長博

芝蘭会の皆様、新年あけましておめでとうございます。期せずして、平成25(2013)年10月からもう1年間医学部長・研究科長を仰せつかることになりました。4年目の任期となりました。とくに昨年は、芝蘭会の皆様のご賛同と多大のご寄附により、医学部記念講堂の修復も無事完了、併設の医学部歴史資料館を含めて、この2月には正式開館の運びとなっています。心からお礼を申し上げます。さて昨年は、政権交代にはじまり国中がアベノミクスといわれる「経済」一

機能強化、組織改革も

色に染められた年でした。政府からは、国立大学ミッション再定義、国立大学改革プラン、日本版NIIH構想などが矢継ぎ早に打ち出され、大学が良かれ

真の国際化、重要な課題



く、大学の内からの意識として、大学の内外からの意識としてのミッションの発信と、そのための自己変革の努力が必要とされていると思います。多様な学生を取り込む努力。新年のごあいさつに代えて、最近の医学部の動向について簡単に報告をさせていただきます。悪しけれその対応に翻弄されてきた感もぬぐえませんが、政府の施策はともあれ、これは大学が現代社会のなかでの機能とあり方を自ら考え、そのための変革の努力を必ずしも十分には行っていないことも責任の一端があるのかもしれない。「外圧」への対応としてはな

草に向けて「国際高等教育院」が組織され、カリキュラムの再構築と5年間で100人の外国人教員の配置が決まりました。医学部でも外国人教員の配置を受け、4月からは1〜2回生に英語での生物学概論の教育が始まります。また医学研究を志向する学生のための新しい入試制度を導入し、入学後MD・PhD教育コースへ直接リンクさせる制度を検討しています。今後とも研究人材養成に向けてできるだけ多様な学生を取り込んでいく努力が必要になるでしょう。研究大学院については大学院教育コースも確立定着し、志願者も定員141人に対して230人前後を超える状態で、研究大学院としての基盤は充分です。問題はむしろ学部教育にあります。全学的には、無政府状態にあった全学共通教育の抜本的改

この中で大学の機能維持強化を進める道は、研究教育組織の思い切った改革以外にありません。医学部でも向こう8年間で18%近い教員定員の削減を求められています。外部資金の導入によって教員数削減は最小限に抑える努力をしています。同時に客観的教員評価と適正な人事配置を含め、真に足腰の強い教育研究組織の確立に向けてメリハリのある組織改革が必要です。このための環境作りも重要で、昨年来文科省の援助をうけ立ち上げてきた研究支援センター(コア・ファシリティー)もようやく本格軌道に入り、多様な大型解析機器の共同使用が順調に進んでいます。

産学連携と部局運営基盤の確立

上記の現状で、部局の自律的活動を担保するためには健全な産学連携の推進とそれによる部局財政基盤の確立は必須です。

グローバル化への道

研究大学院としての重要な柱の一つは真の国際化です。学生レベルでは、これまで形式的になりがちであった交流協定から、世界の主要な大学と実質的な相互学生交流(臨床実習を含む)を担

す。数年前に発足した医学イノベーションセンター(MIC)は成宮センタ1長の下で着実に拡大し、昨年は経産省の援助でMIC新棟も完成、現在5カ所の長期大型共同研究が進行しています。この共同研究はあくまでアカデミアベースで新薬や機器の開発をめざす新しい産学連携モデルとして内外からも注目されているものであり、新しい研究人材の確保と養成にも大きな役割を果たしつつあります。来年には、あらたに医薬総合研究棟の新築が予定されており、大学主導の健全な産学連携の推進に貢献できるものと期待しています。

来年は、久々に京都府日本医学会総会(井村裕夫会頭)を迎えますが、これに呼応して初めての「芝蘭会大総会」の開催を企画しています。今年が、全国各地の会員の皆様にとって文字通り飛躍の年になりますよう心から祈念して、新年のごあいさつに代えさせていただきます。

本席名誉教授に文化勲章

分子免疫学 発展に多大な貢献



このたび、本席名誉教授が文化勲章を受章し、和41年京都大学医学部を卒業、昭和46年同大医学部医学研究科博士課程を修了した。米国

カーネギー研究所およびNIIHにおける博士研究員、東京大学医学部栄養学教室助手、大阪大学医学部遺伝学教室教授を経て、昭和59年に京都大学医学部医化学教室第3講座(のちの大学院医学研究科分子生物学分野)の教授に就任した。在任中は6年間に渡り研究科長としても活躍し、平成17年3

を。すなわち、生体防御機構である免疫系の中で、最も重要で本質的な現象である獲得免疫における病原体の侵入に反応して起こる抗体の多様化につ

いて、その全貌を明らかにした。抗原特異的抗体が作られる過程では、一つの抗原に対して種類の異なる複数の抗体が産生されるクラススイッチと呼ばれる変化と、さらに抗

原とよりよく反応するよう、抗体のアミノ酸配列の微調整(体細胞突然変異)が起こる。同名誉教授は、クラススイッチが抗体の主体であるH鎖の遺伝子伝子の組み換えと切除によって生じることを発見するとともに、H鎖抗体遺伝子を単離し解析することによって、同一の遺伝子上に連結して存在するH鎖抗体遺伝子の各部分が、特殊な反復配列を介した遺伝子組み換えによってクラススイッチがおこる事実を明らかにした。

また、クラススイッチと共に体細胞突然変異も制御するマスター分子であるAID分子の発見に

清野名誉教授らのグループ

ベルツ賞1等賞受賞

日本の優れた医学研究に贈られる第50回「ベルツ賞」の1等賞に、糖尿病研

究の第一人者として知られる清野裕京都大学名誉教授や稲垣暢也京都大医学博士にちなんでいる。

犠牲11人の冥福祈る

—— 広島・廿日市で集い ——

京大原爆災害総合研究調査班遭難者慰霊



慰霊碑に献花する湊医学研究科長

京都大学原爆災害総合研究調査班は、1945(昭和20)年8月6日に原子爆弾が投下された広島にいち早く赴き、被爆者の診療及び調査研究を行っていました。同年9月17日に西日本を襲った枕崎台風により、滞在先の大野陸軍病院が山津波に見舞われ、調査班の班員のうち教職員・学生11人の方が多くの患者とともに犠牲となりました。

昨年、残暑厳しい中、現地(広島県廿日市市宮浜温泉(旧佐伯郡大野町))に建立された慰霊碑の前で、2013(平成25)年9月14日(土)午前10時から、第68回京都大学原爆災害総合研究調査班遭難者の慰霊が自由参拝にて執り行われました。ご遺族、本学名譽教授、廿日市市長、同市議会議長、市役所関係者、大野支所長、広島市関係者、広島赤十字・原爆病院関係者、広島京大関係者、芝蘭会広島支部関係者、京都大学からは、湊医学研究科長はじめ副研究科長、副病院長、現職教授のほか、事務本部、医学研究科職員、芝蘭会事務局など44名が参拝され、無事慰霊を執り行うことができました。

大舞台で技を競い合う

九州で西日本医科学生総体

第65回西日本医科学生総合体育大会 試合結果

【剣道部】
男子団体 予選敗退
女子団体 予選敗退

【弓道部】
28位

【ラグビー部】

1回戦 京都 44-0 大阪医科
2回戦 京都 19-8 奈良県立医科
3回戦 京都 5-12 九州

【サッカー部】

1回戦 京都 0-1 川崎医科

【バドミントン部】

男子団体
1回戦 京都 1-3 岐阜
女子団体
1回戦 京都 0-2 三重

【バスケットボール部】

男子団体
1回戦 京都 46-51 金沢

【硬式テニス部】

男子団体
1回戦 京都 5-1 近畿
2回戦 京都 5-0 金沢医科
3回戦 京都 0-5 山口
女子団体
1回戦 京都 0-3 高知

【卓球部】

男子団体
2回戦 シード 京都 4-0 福岡
3回戦 京都 4-2 鹿児島
4回戦 京都 4-2 川崎医科

準決勝 京都 1-5 広島
3位決定戦 京都 2-4 岡山

女子団体

1回戦 京都 3-0 福岡
2回戦 京都 3-1 鳥取
3回戦 京都 1-3 九州

【準硬式野球部】

1回戦 京都 0-7 岡山

【ボート部】

芝蘭(京都) 1位

【ヨット部】

5位

【バレー部】

男子団体
1回戦 京都 2-0 久留米
2回戦 京都 2-0 琉球
3回戦 京都 2-0 広島
準決勝 京都 2-0 岡山
決勝 京都 1-2 香川

【ハンドボール部】

グループリーグ
京都 15-21 山口
京都 21-13 愛知医科
京都 17-16 鹿児島

【ソフトテニス部】

男子団体
1回戦 京都 3-2 浜松医科
2回戦 京都 2-3 和歌山県立医科

【女子団体】

1回戦 京都 1-2 鹿児島

研究報告など活発に

京大関係病院長 懇親会も和やか



開催のあいさつをする三嶋病院長



開催のあいさつをする湊医学研究科長

京都大学医学部附属病院長は、2013(平成25)年9月6日(金)に、本年度京大関係病院長協議会定例会を京都大学百周年時計台記念館にて開催しました。本協議会は、同会員である関係病院長が親睦を深めるとともに、医学の進歩発達及び病院経営の合理化を企図することを目的として年1回、定例会を開催しているものであり、学内外から150名余りの参加がありました。

定例会では、三嶋理晃病院長及び湊長博医学研究科長の開会あいさつ、三嶋病院長からの「京大病院の現状」について、武藤学教授(がん薬物治療科長、腫瘍薬物治療学講座)「がん



研究などが報告された京大関係病院長協議会定例会

部長「EBM推進部の取り組みと展望」アカデミア主導のEBM研究について、森田智視教授(臨

床研究総合センターデーターサイエンス部長「早期臨床試験から製造販売承認後臨床研究までの運動的なサポートについて」、黒田知宏教授(医療情報企画部長「情報化時代の医療の創出を目指して」より新任者あいさつと研究・診療科などの紹介が行われました。引き続き、小西靖彦教授(医学教育推進センター)より「京都大学医学部と関係病院における臨床実習と研修」について報告があり、その後、福原俊一教授(医学研究科社会健康医学系専攻長)より社会健康医学系専攻について紹介がありました。

また、定例会終了後

2月23日に京大病院臨床懇話会

平成25(2013)年度京大病院臨床懇話会を、平成26(2014)年2月23日(日)15時から京都大学百周年時計台記念館(百周年記念ホール)で開催いたします。本懇話会は、地域医療との連携を推進するため、地域で活躍されている医師の先生方と本院診療科長などの意見交換及び本院からの情報提供の場として開催しているものであり、今年で17回目となります。

生殖器医療、全体テーマ

当日は、「京大病院における生殖器医療の現状と展望」を全体テーマとして講演を行うほか、新任教授のあいさつ、京大病院報告が行われます。なお、本懇話会においては、参加資格を医療関係者のみとし、参加には事前申込が必要となりますので、総務課総務掛(075-751-3005)までお問い合わせください。

70回・2012(平成24)年版

芝蘭会会員名簿 刊行

平成24年12月に発行いたしました会員名簿は若干残っています。会員名簿をご希望の方は、芝蘭会事務局(075-751-2713)までお問合せください。

なお、次回名簿刊行は平成26年12月を予定しております。

- 会員名簿：A4判、890頁
- 会員頒布代：一部 5,250円(消費税を含む)
(但し、会費納入者に限る。その他は10,500円)
- 送料：700円

「京都大学医学部記念講堂・歴史資料館基金」募金の現状

平成25年12月27日(金)現在

・「三井住友銀行」利用のご寄附

296人(法人を含む)

53,880,000円

うち、50万円以上のご寄附は53人(法人を含む)

・「ゆうちょ銀行」利用のご寄附

243人

5,857,000円

うち、50万円以上のご寄附は2人

計 539人(法人を含む)

59,737,000円

より一層力が入りました。いつも一緒に練習してきた仲間がレースで次々とベストを出していく姿は本当に素晴らしいもので、自分も頑張らなければと強く思いました。個人的にも、出たレースではすべてベストのタイムを残すことができて非常に満足いく西医体となりました。

今年の西医体は、リレールフリーリレーで金メダル、800メートルフリーリレーで銅メダルと大健闘でした。最終結果は、総合3位でした。表彰台での内田(文責)2回生、西川裕太)の活躍は結果のみを掲載します。なお、他の部活は結果のみを掲載します。

水泳200メートルフリーリレー 京大が金メダル

第65回西日本医科学生総合体育大会(2013年7/31(8/18))は、九州大学が代表主幹校を務め、全国から集った44校が優勝を目指し覇を争いました。

1万人を超える学生たちが日頃の成果を十分に発揮し合い、大会を盛り上げた。

昨年度に劣らぬ健闘を見せ、1年に1度の大会に、花を咲かせました。

【水泳部】
今年の水泳部は、リレールフリーリレーで金メダル、800メートルフリーリレーで銅メダルと大健闘でした。

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学部学生会館内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

KMYIA 表彰式など 150人が参加

2013 (平成25) 年 9月21日 (土) に第6回 校友会総会、講演会、特別講演会が芝蘭会館稲盛ホールで約150人の参加のもと行われた。

例年通り、校友会土井会長のおいさつと会務報告、医学研究科長湊教授の挨拶、KMYIA表彰

2013 (平成25) 年 9月21日 (土) に第6回 校友会総会、講演会、特別講演会が芝蘭会館稲盛ホールで約150人の参加のもと行われた。

例年通り、校友会土井会長のおいさつと会務報告、医学研究科長湊教授の挨拶、KMYIA表彰

分析と鉄代謝制御系の研究をされている。講演のタイトルは「From Bench to Bedside」とあるが、自身の「From bedside to Bench」ともいえる、臨床、研究の両方に携わられた貴重な経験を通して、難しい研究内容についてユーモアを交えて話された。

医学教育推進センター長小西靖彦教授は昨年に引き続き、京都大学における教育の現状を詳しく話された。在校生の父母にとってはとても興味深い内容の講演であった。

大腸がん幹細胞の「目印」同定

今回 KMYIA を受賞させていただき、大変光栄に感じております。京都大学医学部校友会の方々、並びに関係の諸先生方、そして博士課程で指導を賜った、千葉教授、妹尾先生をはじめ消化器内科研究室の方々に深く御礼申し上げます。

私の今回の論文発表は「大腸がんの幹細胞」に関する内容です。iPS 細胞技術の開発をはじめとして、「幹細胞」は昨今の医学研究の大きなテーマのひとつです。人体の各臓器では、「親」である幹細胞から「子」である子孫細胞が絶えず生まれ出され続けることで、組織の恒常性が保たれております。

一方、人体を脅かす恐ろしい病気である「がん」の中にも、親として働く細胞（がん幹細胞）があり、このがん幹細胞から次々に子孫細胞が生まれ出されるためにがんが大きくなり最終的に生命を奪ってしまう、と近年考えられております。そして、がん幹細胞を見分けて標的とすることができれば、極めて有効ながんの治療法の一つにつながることも考えられます。

医学部卒業後に消化器内科医として勤務していた私は、平成21年に博士課程に進学し、大腸がんのがん幹細胞を見分ける目印（マーカー）を同定するための研究を進めてまいりました。

そして最終的に、大腸がんの中にパラパラとごく少数存在する「Dclk1」という分子が、がん幹細胞の特異的なマーカーとなる可能性を見出し、今回の論文で発表することが叶いました。

この結果が得られるまでに、多くの方々からのご助言・ご尽力を頂くことができ、心から感謝しております。また、非常に充実した研究環境を提供してくださった京都大学医学研究科は素晴らしい「母校」であると感じております。

今回の受賞を励みとして、今後も精進を続けていく所存です。医学研究科からますます多くの優れた論文が生まれ出されることを、そして医学部校友会のさらなるご発展を祈念いたします。

巨大地震の備えに

震度5程度まではデータ洗い出し

青天白日なる9月21日 (土) 午後、稲盛ホールに尾池和夫京都造形芸術大学学長、元京都大学総長をお招きして第6回講演会が開催された。

先生は地文学 (地球と地表近くの自然現象を研究する学問) をご専門とされ、最近特に社会で不安視される巨大地震を中心とした「天変地異」についての科学的総論と、震災対処方法・心構えなどについて解説いただいた。その思想の根柢は京大理念「地球社会の調和ある共存」に置かれている。

先生のお話は高度に科学的であるが、いずれも平易に工夫され、美しい図表はすべて説得性が高く、席を埋め尽くす百名超の聴講者全員に記憶に強く永く生き生きと残るものばかりであった。

地震を知って震災に備える。小生が理解した科学的訴求ポイントを列記すると

尾池京都造形大学学長 (元京大総長) が講演



講演する尾池和夫京都造形大学学長



京造大芸大生「大瓜生山祭」学長受賞作品の前で報告する

①2011/3/11太平洋沖地震は岩盤割れが、3月9日、10日と仙台沖で進展し、11日に巨大地震に発展した。その大規模地震発生プロセスの詳細な定量的データを人類史上初めて計測・蓄積することができた。②大きな地震がひとまず済んだ内陸地区では次の周期まで地震はないので、現時点の関西域では阪神淡路地区は最も安全である。一方、和泉山脈南縁地区は30年以内に大きな地震が発生する地震発生確率は最大14%と抜きん出て高いグループに入る。③震度5 (日本スケール基準) 程度までの地震はむしろ機会と捉え、建築物の揺れ応答・社会

会インフラの弱点などをデータとして洗い出しそれを理解して対策を施し、巨大地震などへの備えとすべし。耐震住宅のみならず巨大橋・超高層ビル・巨大化学産業プラント・街・都市計画などの「大事故回避の勝利の方程式」は多発する小中地震にこそ存在する。④防災情報や事象予測は遅れたり、誤ったり (計算の想定外) することがある。2011/3/11「釜石の奇跡」では群馬大の片田敏孝教授による日頃の「想像力や判断力を養う防災教育」が多くの小学生を救った。一方で、⑤専門家は分からないことは分からないと答えるべき。また政府は

先生のお勧めに従い、早速翌日訪問しました。展示されている作品はいずれも時代を先に進めようとする力にみちみち、芸術をもつて国の良心を復活させようとする強い意志が学園各所で感じられました。

尾池先生の推進される「芸術」と「科学」の融合とは「医療」とも協調し連

松沢哲郎先生【第3回】講演者、世界で二人しかない文化功労研究者からいただいた「チンパンジー・アイちゃん」が描いた絵」を学

長室に飾り、絵を見た訪問者の反応を密に観察したりと、斯様に多彩で愉快な面を併せ持つ尾池先生には今後機会を得てご指導いただきたく、聴講を反芻し感謝の気持ちで一杯です。

(校友会会員 奥津良之)

成し、いわば現代版日本ルネッサンスの胎動が京都から既に始まっている、と実感させる学園祭であったと思えます。画期的かつ世界的な芸術大学が京都に胎動していることを理解しました。

先生は富士山地下10kmあたりに活発なマグマ溜が存在することを根拠に「新幹線の東京往復では山窓側席に座り、噴火瞬間に備えカメラを構えることを常時怠らない」と語られ、あるいは日本列島の水の豊かさが豆腐文化・茶の湯・京友禅などを生み、多彩な日本酒文化を育んだことを根拠にそれらを自ら研究され、また俳人としても活躍されているらしいと語ります。

ボート部とESS部 晴れの校友会賞表彰 クラブ活動で優れた実績

平成25年9月21日に開催された校友会総会において第2回校友会賞の表彰を行いました。



校友会会長と校友会賞受賞者

2012年度より本学部でクラブ活動において優れた実績を挙げ学業と両立させている団体を励まし援助することを目的として「京都大学医学部校友会賞」を創設しています。本年度は、2013

MRTEA阻害剤を臨床応用へ

このたびは平成24年度京都大学医学部若手研究者優秀論文賞 KMYIA をいただきまして、大変うれしく思っております。

京都大学医学部校友会の方々、指導いただきました中尾和先生、桑原宏郎先生、研究室の諸先生方に心よりお礼申し上げます。

心筋梗塞や狭心症、脳卒中などの血管障害に基づく病気が未だ日本人の多くの死因を占め、新たな治療標的や治療法の開発が望まれています。私は臨床医として循環器・救急医療に携わ

その後、平成20年から京都大学大学院医学研究科 (博士課程) で研究を行っております。複数の動物モデルや細胞モデルを用いた研究を通して、血管病変の病態形成に関わる主要なメカニズムの一つである脱分化型血管平滑筋細胞の異常な活性化に、Rho 依存性転写共役因子 MRTEA が強く関与することを発見し、MRTEA 阻害剤が新規の治療アプローチとして有効である可能性を示しました。病的な状態においてのみ強く活性化される MRTEA を阻害することは、正常な細胞に対する副作用を極力抑えることができるため、その発展を心より祈念いたします。

年6月に体育会・文化系のクラブに校友会賞の出願要綱を配布し8月30日に募集を締め切りました。本医科歯科薬科学系ESSS 連盟に加盟し、数々のスピーチ大会で優秀な成績を取っているESSS部に賞状及び支援金5万円ずつを贈りました。

なお、第1回校友会賞は、ヨット部と茶道部に贈られています。(校友会生活・課外活動支援委員会委員長 佐野輝子)

中西 祐貴

医学研究科医学専攻博士課程消化器内科学分野

たれております。

一方、人体を脅かす恐ろしい病気である「がん」の中にも、親として働く細胞 (がん幹細胞) があり、このがん幹細胞から次々に子孫細胞が生まれ出されるためにがんが大きくなり最終的に生命を奪ってしまう、と近年考えられております。そして、がん幹細胞を見分けて標的とすることができれば、極めて有効ながんの治療法の一つにつながることも考えられます。

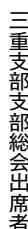
医学部卒業後に消化器内科医として勤務していた私は、平成21年に博士課程に進学し、大腸がんのがん幹細胞を見分ける目印 (マーカー) を同定するための研究を進めてまいりました。

そして最終的に、大腸がんの中にパラパラとごく少数存在する「Dclk1」という分子が、がん幹細胞の特異的なマーカーとなる可能性を見出し、今回の論文で発表することが叶いました。

この結果が得られるまでに、多くの方々からのご助言・ご尽力を頂くことができ、心から感謝しております。また、非常に充実した研究環境を提供してくださった京都大学医学研究科は素晴らしい「母校」であると感じております。

今回の受賞を励みとして、今後も精進を続けていく所存です。医学研究科からますます多くの優れた論文が生まれ出されることを、そして医学部校友会のさらなるご発展を祈念いたします。

パーキンソン病治療テーマ



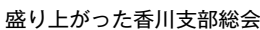
支部だより

今井先生に続き、京都大学再生医科学研究所再生医学応用研究部門生体修復応用分野教授の高橋淳先生が京都大学の近況報告を行われました。内容は医学部や附属病院の運営・教育・研究体制、新しく設立された積貞棟

や学生会館の概要など多岐にわたりました。近年は、先端医療機器開発・臨床研究センター、メデ

外科医の労働の 現状、その教育

手術回数もあまり減ってはいないそうです。ただ、外科医に特化したことではないのですが収入も10%ほど増え、MEの増員などを始めとする待遇改善もあったため、ますます満足しているといった状態のようでした。実際に京大病院での初期研修



方が出席なさり、笠木寛治先生もあまりの出席率の高さに会場の広さが足りないのではないかと大

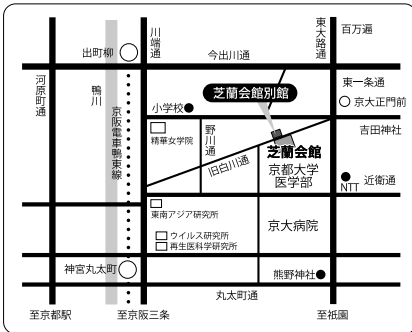
変驚いておいででした。
会はずさまな先生方の自己紹介や近況報告で大いに盛り上がり、まもなく会は惜しまれながらも開きとなりました。このような素敵な会に

私たち雑誌部一同をお招きくださった方に深く感謝申し上げ、芝蘭会香川支部総会の報告とさせていただきます。

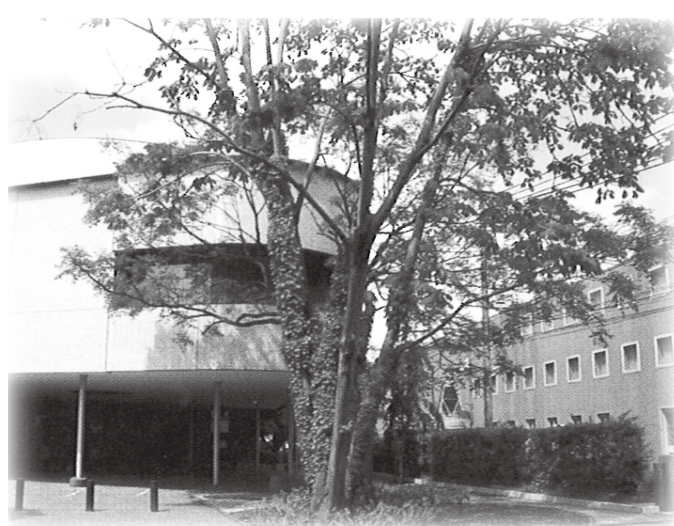
(文責…3回生 坂本慧)

[illegible]

レストラン [しらん] Tel.075-752-1027



	ご利用時間	9:00～12:00	13:00～12:00	18:00～22:00	振込料金
研修室 1・2 定員 60 名		15,000 円	18,400 円	18,400 円	4,600 円
会議室 B1 定員 20 名		9,800 円	11,500 円	11,500 円	3,000 円
和 室 1・2 定員 10 名		6,300 円	8,000 円	8,000 円	2,300 円



支部だより

脳外科手術の安全 監視システムに感銘



盛り上がった福井支部総会

【福井】平成25年8月3日(土)、ホテルフジタ福井にて芝蘭会福井支部総会が行われました。支部長の野口正人先生のあいさつから始まり、理事だった眞弓光文先生がめでたく福井大学学長に就任されたというお話がありました。その後、役員改選、会計報告、今年度予算案といった具合に会は進行し、お二方の支部会員による研究発表がありました。

一つ目は、福井大学医学部テニートラック推進本部助教の青木耕史先生による「大腸癌幹細胞の維持機構の解析」でした。腸管の上皮細胞に特異的に発現するホメオボックス蛋白CDX2と大腸がんとの関係についての発表でした。いまだにWNTシグナルが下流のβ-カテニンに作用し細胞増殖を進行させることは解明されていたのですが、CDX2の発現異常によっても大腸がんが誘発されるということが分かってきました。青木先生はCDX2が制御する領域とWNTが制御する領域は完全には一致していないと考え、CDX2の制御領域でありながらWNTが関与していない領域に着目しているそうです。この領域を解析することで新しい分子を標的にした新薬などが期待できるそうです。

二つ目は福井赤十字病院副院長兼外科部長の廣瀬由紀先生による「DPCデータを利用した当院外科診療の分析」でした。DPCとは各患者を「病名」と「行われた医療行為」との組み合わせで分類する方法です。そのデータをDPC対象病院間で比較することで福井赤十字病院の外科診療科を評価したというお話でした。その結果、福井赤十字病院では大腸癌における内視鏡使用症例の割合が他病院よりも非常に多く、手術部位感染についてもここ数年全国平均を下回っているという成績を残しているというものでした。非常に興味深い話であり、研修などで行ってみたいと思いました。

次に福井大学医学部脳脊髄神経外科教授の菊田健郎先生による特別講演がありました。内容は「福井大学における脳外科手術の安全監視システムと効果」でした。未破裂脳動脈瘤の手術は周りにある神経や動脈を二つづつ剥がし広い術野を作ったり、クリップを挟むなど処置をするそうです。しかし、剥がす途中で神経に損傷を与え後遺症が起きるかどうか、完全に動脈瘤が閉鎖されているのかどうかは術中では分かりません。つまり高い手術技術が求められるが、リスク回避はできないということです。そこで安全監視システムを導入しているそうです。その具体的な例がインドシアニングリン血管造影(ICG)や専属技官による電気生理学モニタリングというものです。ICGにより瘤が閉鎖されているか、電気生理学のモニタリングでMEP、VEPを記録することで後遺症が起きていないかを判別することができるとのことです。

和やかな雰囲気のア媛支部総会



「国民皆保険」活発に議論

【愛媛】平成25年10月5日(土)、松山市の大和屋本店にて芝蘭会愛媛支部総会が開催されました。まず、石丸小児科院長の中野省三先生のごあいさつで会が始まり、芝蘭会愛媛支部長の門田和紀先生の司会のもと支部総会が行われました。残念なことに、この1年間で4人の愛媛支部会員がご逝去されたため、会に先立って黙祷が捧げられました。続いて、門田先生により京都大学の近況報告が行われ、京都大学の近況報告に引き続き、市立宇和島病院名譽院長の近藤俊文先生が「国民皆保険は錦の御旗か、呪縛か」という演題で特別講演を行われました。日本では既に当たり前のこととなっている国民皆保険ですが、近年は財政面などで崩壊の危機に面しています。それに加えて、最近では混合診療の可否やTTPによる保険分野の規制緩和が大きな注目を集めており、医師にとっては特に直接的に関係する問題となっています。医師会においては、現行の保険制

こういったさまざまな安全監視システムのおかげで、その具体的な例がインドシアニングリン血管造影(ICG)や専属技官による電気生理学モニタリングというものです。ICGにより瘤が閉鎖されているか、電気生理学のモニタリングでMEP、VEPを記録することで後遺症が起きていないかを判別することができるとのことです。

医師に執刀機会を与えるという教育面でも安全監視に有用であると力説されました。この講演中に流れた手術映像はまさに神業とでもいうべき素晴らしいもので、感銘を受けました。こういうシステムがどんどん普及していくといいですね。

最後に京都大学医学部人間健康科学系専攻近未来型人間健康科学融合ユニット教授の荒井秀典先生が本部関係報告を行いました。MD-PhDコースについて、旧解剖学棟が記念講堂として改装されたことなどお話しされました。

来型人間健康科学融合ユニット教授の荒井秀典先生が本部関係報告を行いました。MD-PhDコースについて、旧解剖学棟が記念講堂として改装されたことなどお話しされました。

その後、場所を移して懇親会が行われ食事をしながら会員同士の交流が行われました。偉大な先輩方のお話を聞くことができ、非常に有意義な時間を経ることができました。

末筆になりましたが、このような素晴らしい機会に参加させていただきありがとうございます。以上で芝蘭会福井支部総会・懇親会の報告を終わらせていただきます。(文責：3回生 小杉大輔)

「放射線治療の進化」知る

【奈良】平成25年8月24日(土)、あやめ館(奈良市)にて芝蘭会奈良支部総会が開催されました。まず、大和高校市立病院院長の砂川晶生先生の司会のもと、奈良県支部長で大和高田市立病院名譽院長の松村忠史先生のごあいさつより会が始まり、総会の議事が進行しました。会計報告のあと、今後の運営、次回開催日程について協議され、支部総会

への参加者数増加を期待する声が多く上がりました。続いて、坂口医院院長の坂口守彦先生による乾杯のご発声で懇親会が開催されました。この中で、京都大学大学院医学研究科放射線腫瘍学画像応用治療学教授の平岡真寛先生が、京都大学医学研究科および医学部の近況報告を行いました。内容は改装された記念講堂や新しく設立された積貞



和気あいの奈良支部総会

療へ」という演題でご講演されました。近年、放

療へ」という演題でご講演されました。近年、放

療へ」という演題でご講演されました。近年、放

支部だより

た。また、医師の姿勢として、制度の制定や運用に際して受動的になるのではなく、自ら行動を起こすという意思を持つことが大事であるということも指摘されました。ご講演の後には、実際に保険の監査などに関わられている先生方を中心に活発な議論が行われました。講演会に続いて記念写真撮影をした後、場所を移して懇親会が開催されました。乾杯では御年90歳になられる野島元雄先生が音頭をとられ、それに続いて数名の先生方が近況報告をなさいました。総会の近況報告でも言及された医学部構内の建物などの変化に興味をお持ちになる先生が大勢おられ、それぞれの先生方の学生時代と比較してお話しされるなど、大いに盛り上がりました。今回の総会では特に年長の先生方が多く参加されていたこともあり、戦後すぐの京都や京都大学にまつわるお話など普段ではあまり聞く機会のないお話をうかがうこともでき、非常に貴重な経験をさせていただきました。懇親会は始終和気あいあいとした雰囲気が進み、最後に柴田大法先生のごあいさつで締めくくられ、惜しまれながらも閉会となりました。

最後になりましたが、素晴らしい会にお招きいただき貴重な経験をさせていただいたことに深く感謝の意を申し上げます。総会のご報告を終わらせていただきます。(文責：6回生 前田峻宏)

ピグミー研究通し
環境問題を考える



和やかに歓談した滋賀支部総会の出席者

支部だより

【滋賀】

平成25年10月19日（土）、彦根キャッスルホテルにて、芝蘭会滋賀支部総会が開かれました。総会に引き

から手までの長さを表す言葉に由来し、身長が低いことを誇張した名称でもあります。紀元前には、ナイルの源の「神の踊り子」として奉られ

たり、18世紀には人間ではないとの見解が出たこともありました。19世紀に再度人類の仲間として認識されるようになり

ました。なぜ身長が低いのかについては、障害物が多い熱帯雨林に対応するためだという説や、寿命が短く死亡率も高いため、性成熟後の成長を体の大

きさではなく生殖に向けてためだという説があるようです。

ピグミーの研究をする目的として市川先生は二つを述べられており、一つは、狩猟生活という最古の生活様式を研究することとで人類社会の進化の手掛かりとし原生人類の復元を試みようというものであり、もう一つは、熱帯雨林の森の民とはすなわ

ち、自然と共存して生きてきた人々であり、彼らの生活を調査する中に、現在叫ばれている環境問題の解決への手がかりを模索しようというものだそうです。市川先生は後者の目的を主に研究されているようで、今回の講演でもそちらについてお話されていました。

かつては、自然は無限であり、どんなに利用しても枯渇しないし、廃棄物を出しても吸収されるとの考えがありました。しかしこれは、自然と人間社会の間における循環が成立していたからにすぎず、産業革命以後に自然の搾取が過度になると現在のような環境問題の発生に至りました。それに対しピグミーの社会では、自然の恵みを食料や生活用品として利用する方

で、彼ら自身が森の中に居住しそこにさまざまな物資を運びこむことで有機物やミネラルが累積し、森林環境を保持することにつながっており、すなわちそこには循環が成立しています。

しかし近年、ピグミーが貧困を脱却するために獣肉を都市に売りに出したり、伐採でお金を得ようとして、循環が成り立たなくなることが危惧されるようです。その解決策として市川先生は、果実や木の実などの非木材森林産物を利用することを強く述べられていました。

その後、場所を移して記念写真撮影が行われた後、懇親会が開かれました。先生方も気さくに話

芝蘭会費納入は自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引落し」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にも繋がります。

ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。

芝蘭会 事務局
(TEL 075-751-2713)

手続き等については、

までお問い合わせください。

しかけてくださり、学生時代の思い出話に始まり、昔の医療と比べて現在の医療がどれだけ違うのかなどといったためになる話まで、さまざまなお話を聞かせていただきました。会費は終始和やかな雰囲気

に進み、みなさん非常に楽しまれているように見受けられました。最後になりましたがこのよう

な貴重な会にお招きくださったことに感謝の意を持って滋賀支部総会の報告を終わらせていただきます。

(文責：4回生 真辺諄)

【ご注意】

最近、芝蘭会員の方々へ芝蘭会

員または京大医学部事務職員の名

前をかたて、個人情報（住所、

電話番号等）を開き出そうとする

不審な問い合わせの電話があると

いうことを会員の方からご連絡を

いただいております。芝蘭会とは

全く関係がございませんので、くれぐれもご注意くださいますようお願いいたします。

なお、芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合わせはいたして

おりません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡ください。

芝蘭会 事務局

TEL:075-751-2713 FAX:075-752-4015

人 事 異 動

発令年月日	氏 名		異動内容
H25.10.1	澤本 伸克	昇任	京大病院神経内科助教より同講師へ
H25.10.1	山口 泉	採用	東京大学特任助教よりゲノム医学センター疾患ゲノム疫学特定講師へ
H25.10.1	川口 淳	採用	久留米大学バイオ統計センター講師より臨床研究総合センター准教授へ
H25.10.1	越山 雅文	昇任	周産母子診療部助教より同講師へ
H25.10.16	漆谷 真	採用	滋賀医科大学准教授より臨床神経学准教授へ

発令年月日	氏 名		異動内容
H25.11.1	祝迫 恵子	採用	大阪市立大学助教より寄附講座（標的治療腫瘍学講座）特定講師へ
H25.12.1	後藤 謙元	昇任	京大病院眼科助教より疾患ゲノム疫学准教授へ
H25.12.1	伊藤 宣	採用	リウマチ性疾患制御学講座特定准教授より整形外科学准教授へ
H25.12.1	田村 寛	昇任	診療報酬センター助教より医療情報企画部准教授へ
H25.12.1	岡本 和也	昇任	医療情報企画部助教より同講師へ

会 員 訃 報 (敬称略)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

三木 利雄 (昭10年卒)	平成25年12月12日	ご逝去
小西 俊造 (昭17年卒)	平成24年10月27日	ご逝去
今村 純夫 (昭20年卒)	平成25年8月4日	ご逝去
濱島 義博 (昭20年専卒・昭25年卒)	平成25年12月14日	ご逝去
山名 確郎 (昭20年専卒)	平成25年11月4日	ご逝去
竹中善三郎 (昭24年卒)	平成25年10月3日	ご逝去
向野 榮 (昭24年卒)	平成25年11月14日	ご逝去
本村 俊二 (昭24年卒)	平成25年7月24日	ご逝去
山下 政行 (昭24年専卒)	平成25年1月31日	ご逝去
足立 明 (昭25年専卒)	平成25年8月20日	ご逝去
西村 潤三 (昭25年業卒)	平成24年8月6日	ご逝去

神尾 彰 (昭26年卒)	平成25年10月	ご逝去
立花 和典 (昭27年卒)	平成25年8月15日	ご逝去
宇野 弘 (昭30年業卒)	平成25年10月12日	ご逝去
濱本 研 (昭32年卒)	平成25年8月30日	ご逝去
浜田 幸子 (昭33年卒)	平成25年8月3日	ご逝去
真鍋 幸夫 (昭33年卒)	平成25年10月9日	ご逝去
田村 清 (昭35年卒)	平成25年6月21日	ご逝去
水上 智夫 (昭38年卒)	平成25年3月8日	ご逝去
武田 昭子 (昭40年卒)	平成25年9月7日	ご逝去
THHAVORN RATANA (昭43年卒)		ご逝去
馬場 清 (昭43年卒)	平成25年10月21日	ご逝去

福山 訓生 (昭43年卒)	平成25年1月8日	ご逝去
砂子 和俊 (昭46年卒)	平成25年1月11日	ご逝去
山田 光一 (昭50年卒)	平成25年1月9日	ご逝去
鈴間 泉 (平5年卒)	平成25年2月19日	ご逝去
長浜 みよ (教室会員 解剖3)	平成24年12月15日	ご逝去
佐藤 一夫 (教室会員 病理)	平成21年5月3日	ご逝去
藤田俊太郎 (教室会員 外科)	平成25年12月8日	ご逝去
矢野 敏郎 (教室会員 眼科)	平成25年3月9日	ご逝去
九谷 修 (教室会員 整外)	平成25年8月22日	ご逝去

芝蘭会事務局
事務局長 山田 均
総務課長 秋山和美
管理課長 浜崎康博

朴 剛史 (1回生)

上 2 回生)

高屋龍生、西川裕太 (以

大輔 (以上3回生)

本 慧、大植啓史、小杉

赤埴未宝、宮崎規晶、坂

田将史 (以上4回生)

真辺 諄、森山太陽、鶴

畑野翔太郎 (5回生)

上 6 回生)

宮仲弥、柳井谷駿史 (以

山田直生、前田峻宏、宗

橋本健太郎、中村有輝、

部 員

顧問 高折晃史

芝蘭会雑誌部

介、園部 誠、阿部 恵

征良、豊國伸哉、山田圭

委員 斎藤信雄、岩田

委員長 高折晃史

芝蘭会報編集委員会

原 稿 募 集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場
であります。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介
(自薦・他薦)及び医学・医療等に関するご意見
等を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期
については、編集委員会でご決めさせていただきます。
芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。(FAX 075-752-4015)